

民主主義の危機、ウクライナ問題で 日本で報道されないこと

孫崎 享 元外務省
国際情報局長・
講演「平和を創る」

5月15日、東京土建本部
で行なわれた教宣活動者会
議のなかで、「平和を創る」
と題して孫崎享さんの講演
がありました。その一部を
紹介します。(文責、見出
し共に編集部)



大久保駅付近で「憲法改正反対」の宣伝を行なう
東京土建主婦の会の皆さん

曲がり角にある日本

世論調査で改憲賛成が44%

今、日本は大変な曲がり角
に来ているのではないかと思
います。長い間、戦争をしな
い、日本国憲法を守ってきま
したが、風前の灯のような、
このままいくと憲法9条は大
きく変わる可能性が出てき
ていると思います。

変化した世界の潮流

購買力は非G7が上

憲法記念日を契機に毎日新
聞が世論調査をしました。岸
田政権での改憲賛成が44%、
反対が31%です。一つの契機
はウクライナ問題です。私は
この問題を見ていてどこかお
かしいな、という気がしてい
ます。それは、国会でのゼレ
ンスキーの演説を見て思いま
した。国会とはどういうこと
でしょうか。安全保障、経
済、労働、教育などの問題に

「プーチンが悪いに決まっ
ているのではないか」と言われ
る方がいるかもしれません。
今世界の動きの一つはG7で
す。しかしG7は世界の中心
をなして来ましたが、今世界
の潮流はG7だけではありま
せん。アメリカのCIAはワ

ールドファクトというサイト
を持っています。購買力平価
ベースを使って、世界各国の
購買力を計算していますが、
G7の合計よりG7に入ってい
ない上位7カ国の合計の方
が多いのです。

今年11月にG20の会議がイ
ンドネシアのジャカルタで行
なわれる予定です。アメリカ
はプーチンと呼ぶなど言いま
した。これに抵抗するのは容
易なことではありません。し
かしインドネシアは、プーチ
ンはG7のメンバーだから呼
ぶ、それと合わせてゼレンス
キーも呼ぶと言っています。

かつては10番目ぐらいでし
た。現在はG7では最下位で
す。韓国や台湾の下です。
私たちは1960、70年代
に生活してきましたが、北朝
鮮と韓国が非常に対立してい
る中で報道の自由を維持す
るのは容易なことではありません。
1970年ぐらいに日本

「G7」と「非G7」
上位7カ国のGDP比較

G7		非G7	
アメリカ	19.8	中国	23.0
日本	5.2	インド	8.4
ドイツ	4.2	ロシア	3.9
フランス	2.8	インドネシア	3.1
イギリス	2.8	ブラジル	3.0
イタリア	2.3	トルコ	2.4
カナダ	1.7	メキシコ	1.7
合計	38.8	合計	45.5

*単位は兆ドル
*数字は購買力平価ベース



孫崎さん

インクオベーションでゼレン
スキーの演説を歓迎する。な
ぜプーチン大統領の意見を聞
かないのでしょうか。「あい
つは悪者だから聞かない」。
しかし悪者の意見も聞いてい
いではないですか。ゼレンス
キーがこういう意見をいう、
それに対してプーチンはこ
う言う。両方の意見を聞いて自
分の態度を決める。なぜ、そ
れができないのでしょうか。

「TIME」が 掲載したこと

ウクライナ問題も「いや、
ちょっと違うのではないの
か」という考え方は日本では
ほとんど紹介されてきません

私はアメリカでどうい
う議論があるかを知っている
ようなつもりですが、ア
メリカの代表的な雑誌の表紙

の報道の自由度が韓国よりも
下になると誰が思ったので
しょうか。我が国の民主主義
体制が緊張のある朝鮮半島の
韓国という国より低くなる
誰も思っていないはずで
す。しかし現実それが突き
つけられています。

した。世界中がそうかといえ
ば、実はそうではありません。
アメリカの最も有力なニュ
ース雑誌「TIME」は元プ
ラジル大統領のインタビューを
掲載しました。しかも表紙に
元大統領の写真を出しまし
た。アメリカの国民に対して
この人の言うことは聞いてく
れと、アメリカの一流の雑誌
が記事を出しました。

「米国もEUも 有罪である」

元ブラジル大統領は何を言
っているか。
プーチンはウクライナに侵
入すべきではなかった。しか
し罪を犯しているのはプーチ
ンだけではない。米国とEU
は同じように有罪である。ウ
クライナにプーチンが入った
理由はNATOの問題。いま
までの通りウクライナはNATO
に加盟すべきではないとい
うことを言えば戦争は起らな
かった。もしも私が大統領だ
ったら、アメリカ、ドイツ、
フランスの首脳に電話をかけ
て紛争するのはよくない、解
決しないことはならない、戦
争をするのではなく、解決を
することを話す。私はウクラ
イナ大統領がテレビで演説し
手喝采を受け、すべてのユ

ロップの国会議員から絶賛さ
れているのを見て、この
の男はプーチンと同じくらい
戦争の責任がある。なぜなら
一人で戦争をできるものでは
ない。ウクライナ大統領がN
ATOの問題とEUに加盟す
るとい問題はこの複雑な状
況でとりあえず棚上げして
おくと言え、戦争には起
らなかったのだ。今、世界の
人々は戦争を奨励している。
私たちは真剣な会話をする必
要がある。私はゼレンスキー
に言いたい。あなたは素敵な
コメディアンだった。あなた
はテレビに出ていると思っ
ている。だけどテレビに出るた
めに戦争するな。バイデンと
十分に戦争を止めるという努
力をしたとは思わない。アメ
リカは影響力があるから戦争
しないということを明確にし
ていけば、その方針を貫いて
いけば戦争は起らなかった
のだ、こう言ったわけです。

戦前の大政翼賛会のように 異なる意見は排除する

この発言が正しいかどうか
は見ていきませんが、少なく
もブラジルの元大統領が発言
して、それがアメリカの一流
雑誌の表紙に出ている。今日
本中で、ウクライナ問題は大
変な問題だ、一番重要な問題
だと思われている。そして山
のような報道があるが、そこ
にこの報道はありません。

に、民主主義の根本は様々な
展開を見て、何が正しいかと
いうことを一般の人たちが判
断する。それをもとに政策を
していく。「これが正しいの
だからやれ」。そうではない
でしょうか。今、日本の状況は
戦前の大政翼賛会のようにな
っています。

そうはいっても毎日、ロシ
アやっつけてしまえ、できた
らあの国を滅ぼさなきゃいけ
ないなどと報道されるなか
で、私の発言は少し過激では
ないですか、と思う方がいる
かもしれません。

私たちが知らない事実で
大変な問題が起ってきた時
は、私たちが知らない事実で
大変な問題が起ってきた時

から今日まで外交安全保障に
おいて最も評価された人はキ
ッシンジャーだと思います。
キッシンジャーはウクライナ
問題で、ウクライナは非常に
微妙な地域にあり、常にロシ
アと西側のヨーロッパとの戦
場になってきた。もしもウク
ライナが繁栄、生き残りをし
たいと思うならば、いずれか
の陣営に立ってその先兵にな
るべきではない。ウクライナ

報道の自由度は 71番目に

報道の自由度で日本が世界
の71番目とされています。

見は外す。前に述べたよう

キッシンジャー はどう言ったか

問題がどのような問題かを
知っている人ほどいませ
ん。私たちが知らない事実で
大変な問題が起ってきた時

の西部はカトリックで東部は
ロシア正教だ。西部は大部分
がウクライナ語を話し、東部
は大部分がロシア語を話す。
この二つの勢力の一方が他方
を支配しようとする内乱が
起る。ウクライナは独立し
て23年になる。それ以前は14
世紀から何らかの外国の支配
を受けてきた。残念ながらウ
クライナ人は妥協するとい
うことを学んでいない。さら
には世界的な歴史の視野を持
っていない。だからウクライナ
人の一方が一方を支配しよう
とすると内乱が戦争になる。
このようにキッシンジャーは
言っています。